

---

# 多胎児家庭の育児に関する実態調査


大木秀一<sup>1)</sup> 志村 恵<sup>2)</sup>

[sooki@ishikawa-nu.ac.jp](mailto:sooki@ishikawa-nu.ac.jp)

- 1) 石川県立看護大学健康科学講座
  - 2) 金沢大学人間社会学域
- 




## 【背景】

1. 不妊治療の普及により多胎出産は急増した。
  2. 多胎育児には身体的・精神的・社会的な負担が重積し、産後うつ、育児困難、児童虐待など親子保健上のリスクが高いとされる。
  3. 行政・医療の理解を深め、支援を広げるには、大規模調査による具体的数値が必要である。
- 



## 【目的】

多胎育児の当事者を対象に、育児の実態と、必要としている支援を把握し、行政施策に反映させるための基礎資料を提供する。






## 【方法】

多胎児の妊娠から育児についての質問紙調査を実施した(2010年1月～3月、現在も継続中)。

無作為抽出は不可能と判断し、多胎育児支援の情報発信、講演会・交流会などを通じて信頼関係を築いてきた全国の多胎児サークルに質問紙の配付を依頼した。





集計結果を下記の大規模調査と比較検討した。

- 21世紀出生児縦断調査(厚生労働省)

全国の2001年に出生した子を対象

第1回:平成13年度、第2回:平成14年度、第3回:平成15年度、  
第4回:平成16年度、第5回:平成17年度、第6回:平成18年度

- 平成12年度幼児健康度調査(日本小児保健協会)

分析対象:0~6歳双生児(n=312)

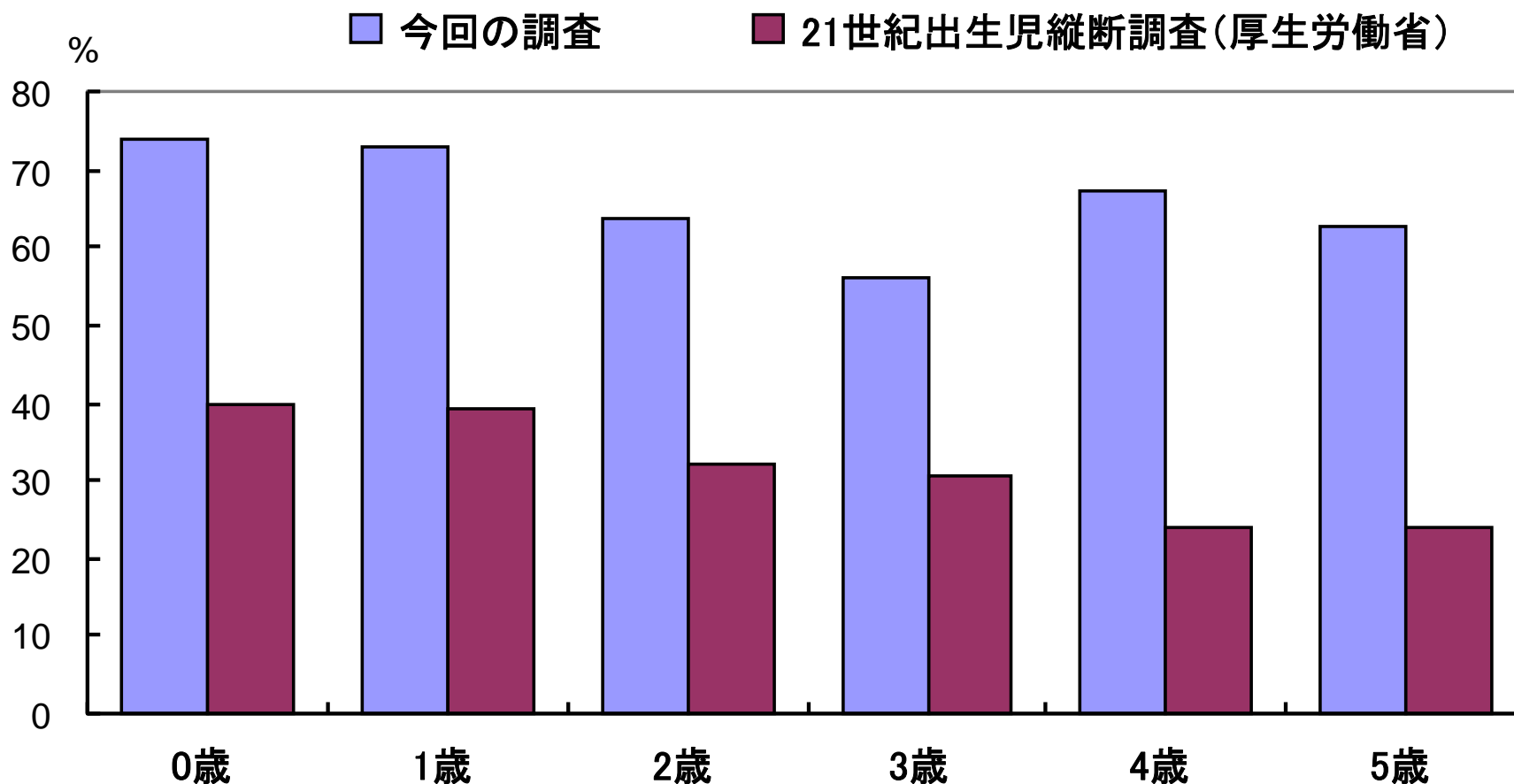


# 【配付状況と返信率】

協力地域	配付部数	返信数	返信率
石川県	330	100	30.3
青森県	96	39	40.6
愛媛県	20	10	50.0
岐阜県	150	74	49.3
福岡県	63	25	39.7
大阪府	68	24	35.3
広島県	92	36	39.1
兵庫県	125	92	73.6
東京都	1133	386	34.1
(全国組織を含む)		(未入力)	(未入力)
鳥取県	127	(実施中)	(実施中)
計	2077	786	37.8

# Q 子どもをもって負担に思うことは何ですか？

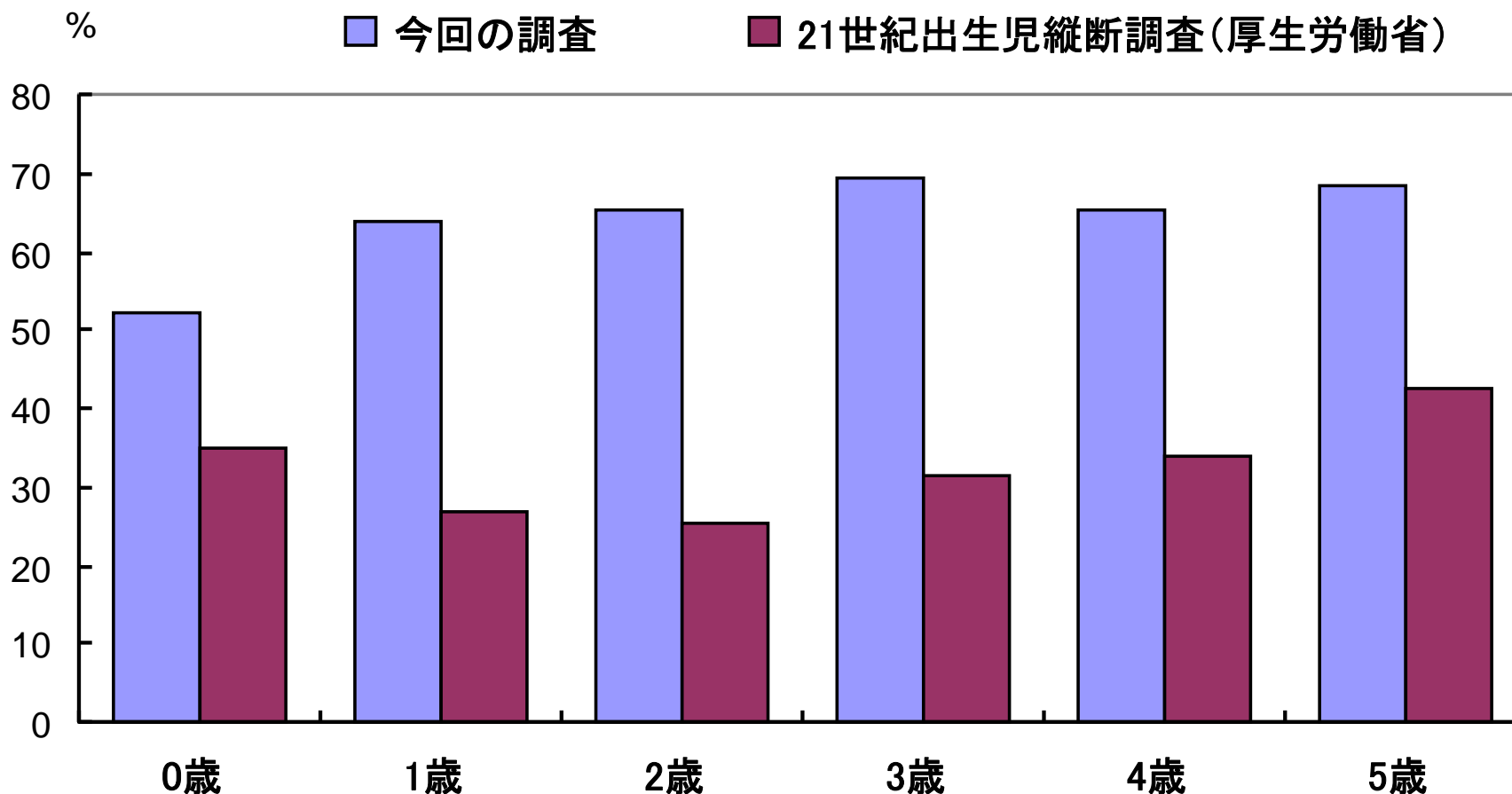
子育てによる身体の疲れが大きい



21世紀出生児縦断調査(厚生労働省)	第1回(6ヶ月)	第2回(1歳6ヶ月)	第3回(2歳6ヶ月)	第4回(3歳6ヶ月)	第5回(4歳6ヶ月)	第6回(5歳6ヶ月)
今回の調査(n=279)	0歳(n=23)	1歳(n=55)	2歳(n=55)	3歳(n=59)	4歳(n=52)	5歳(n=35)

# Q 子どもをもって負担に思うことは何ですか？

## 子育てで出費がかさむ

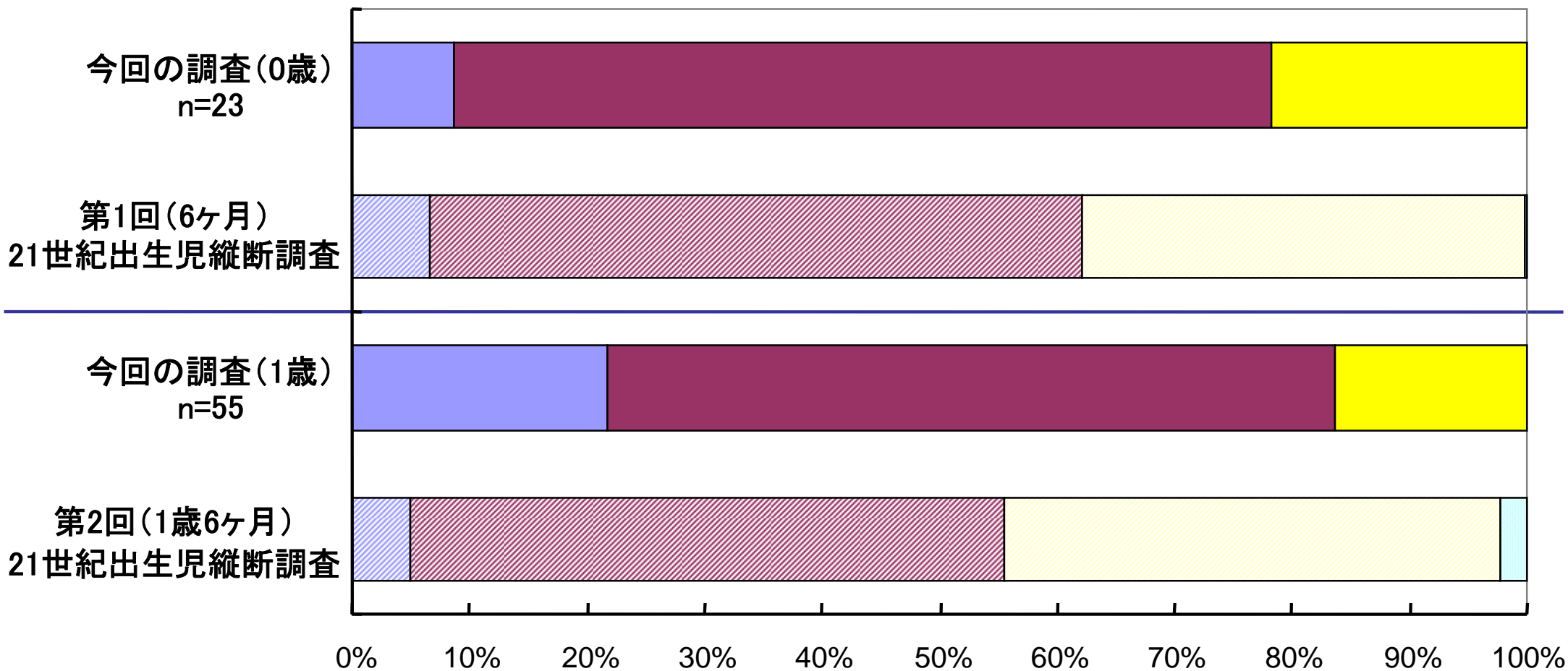


21世紀出生児縦断調査(厚生労働省)	第1回(6ヶ月)	第2回(1歳6ヶ月)	第3回(2歳6ヶ月)	第4回(3歳6ヶ月)	第5回(4歳6ヶ月)	第6回(5歳6ヶ月)
今回の調査(n=279)	0歳(n=23)	1歳(n=55)	2歳(n=55)	3歳(n=59)	4歳(n=52)	5歳(n=35)



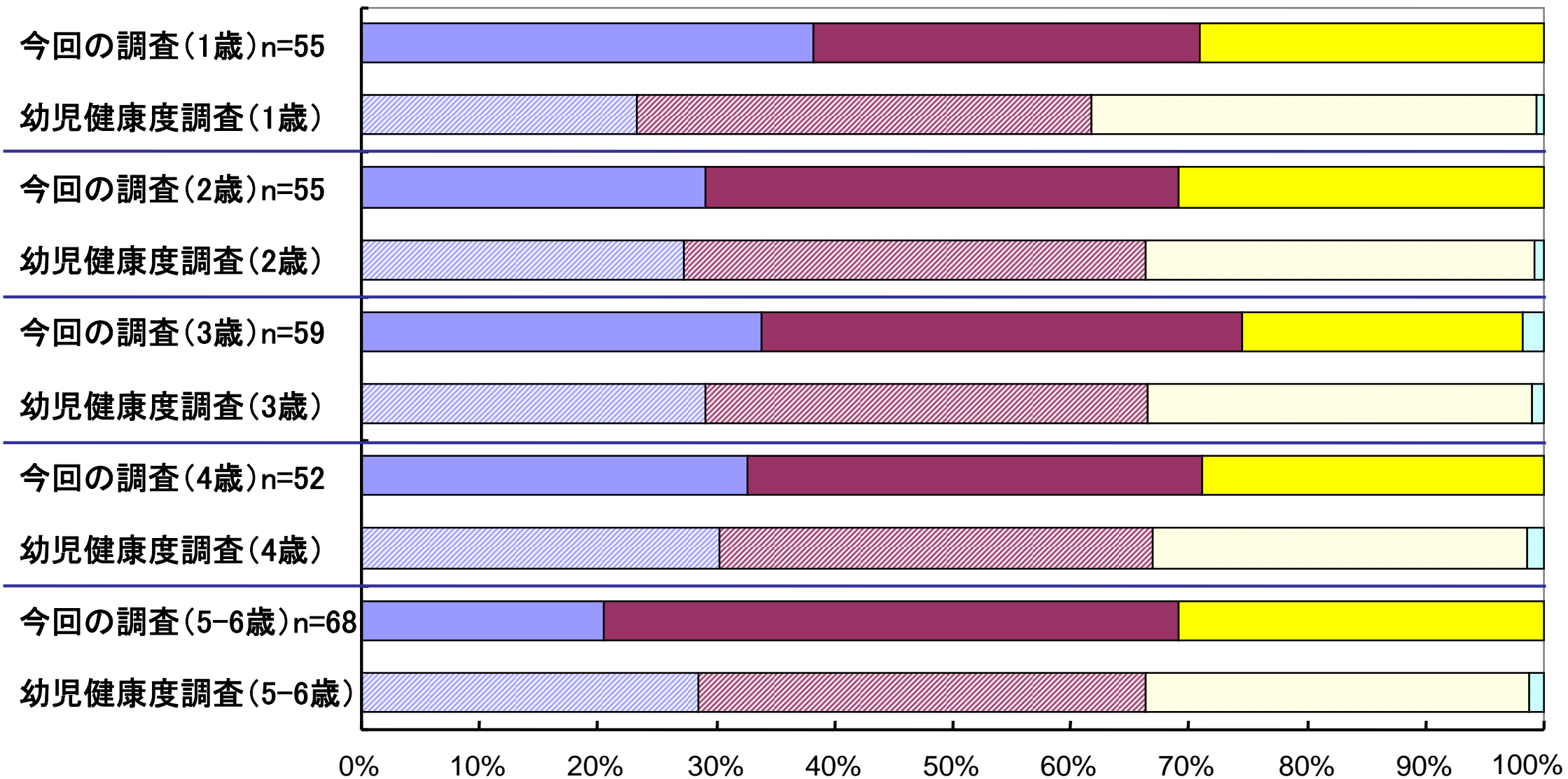
# Q 子育てに不安や悩みはありますか？

■ すごくある ■ 少しある ■ ほとんどない ■ 不明



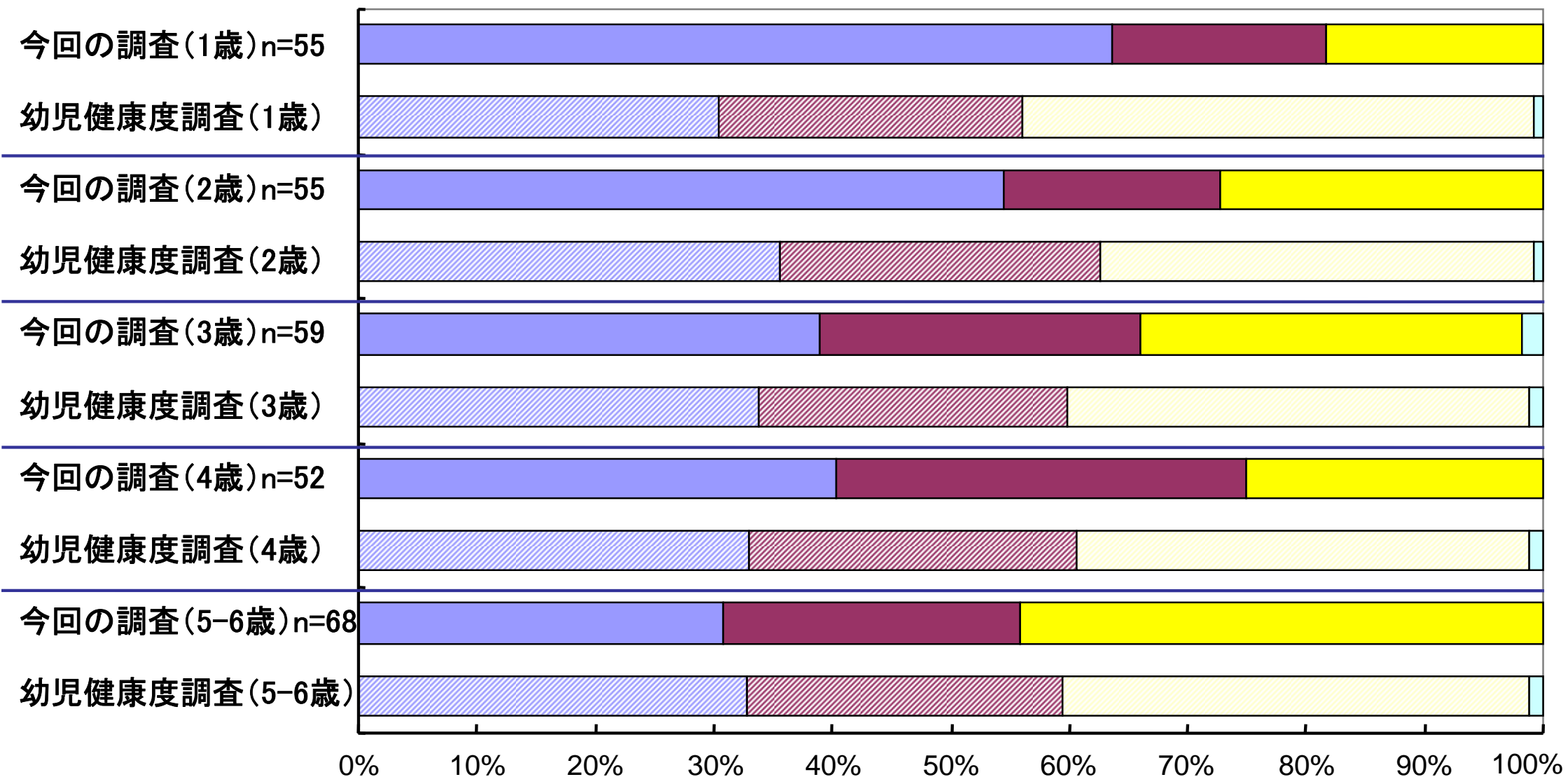
# Q 育児に自信がもてないことがありますか？

■ はい ■ 何とも言えない ■ いいえ ■ 不明



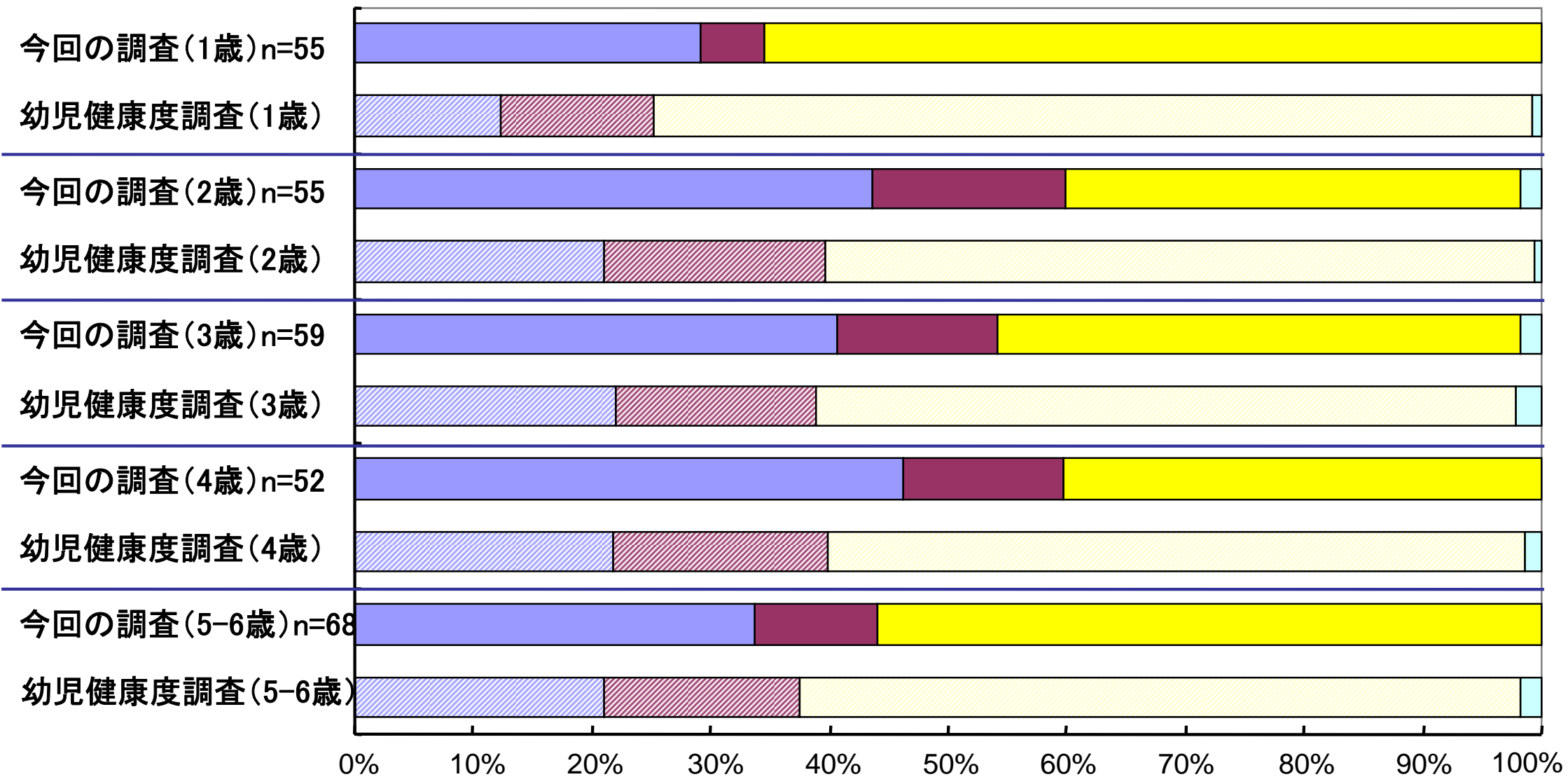
# Q 育児に困難を感じることはありますか？

■ はい ■ 何とも言えない ■ いいえ ■ 不明



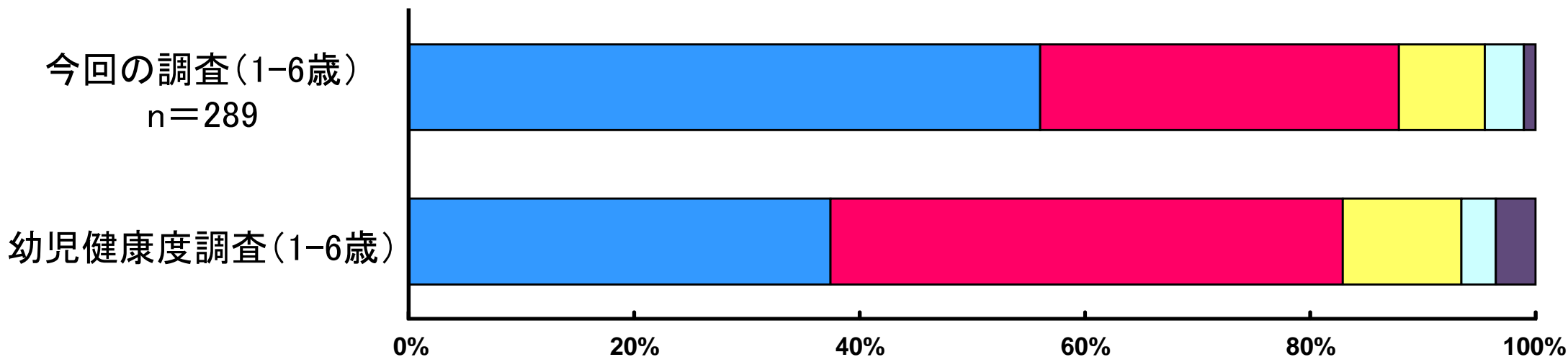
# Q 子どもを虐待しているのではないかと思うことがありますか？

■ はい ■ 何とも言えない ■ いいえ ■ 不明

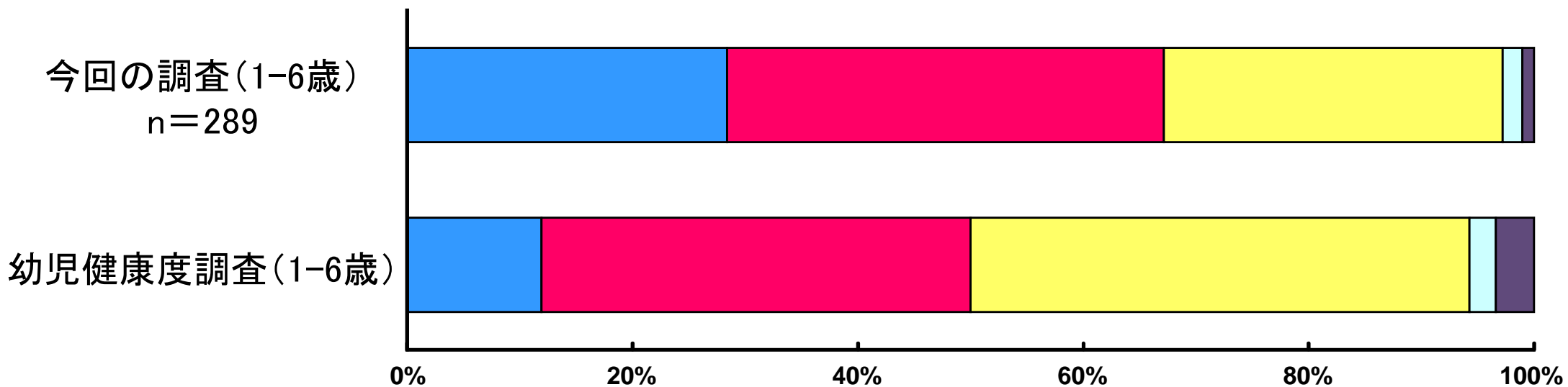


# Q お父さんはふたごの育児に参加してくれていますか？

■ よくやっている ■ 時々やっている ■ ほとんどしない ■ 何とも言えない ■ 不明



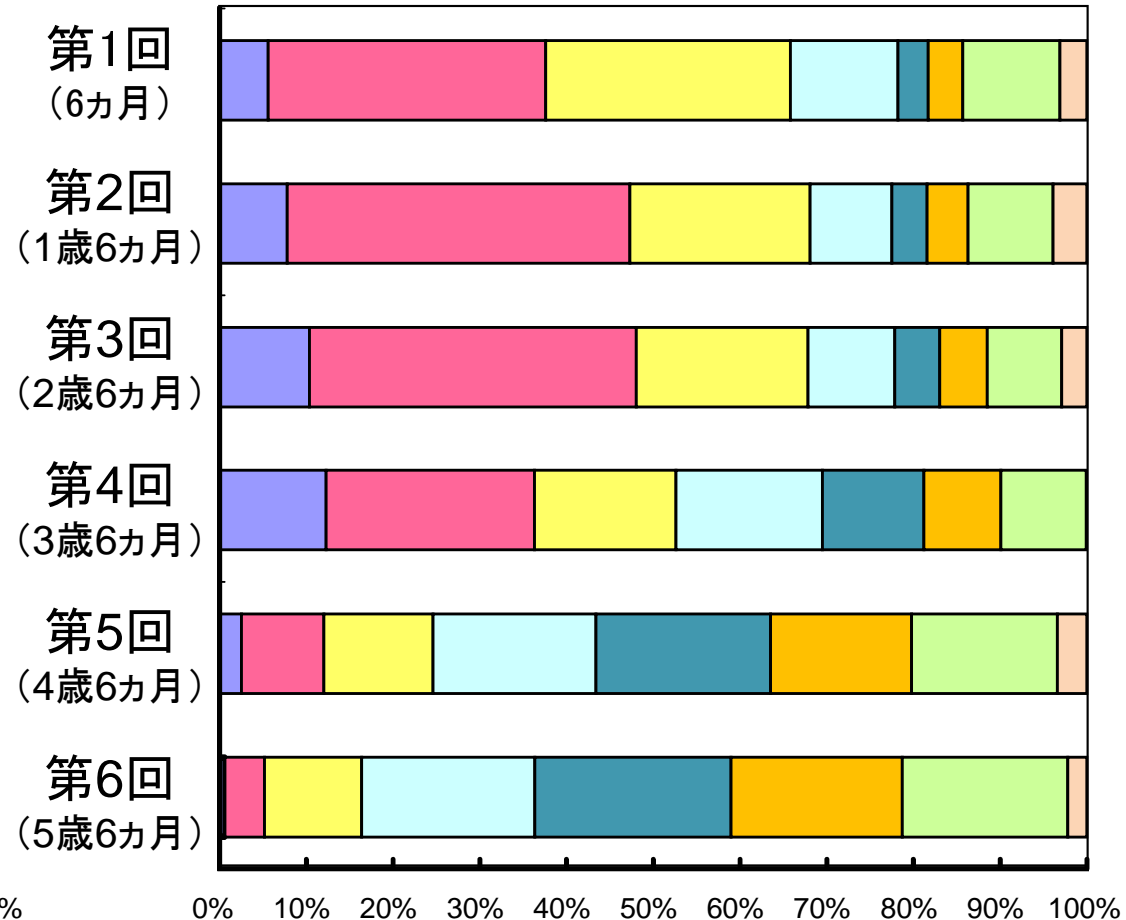
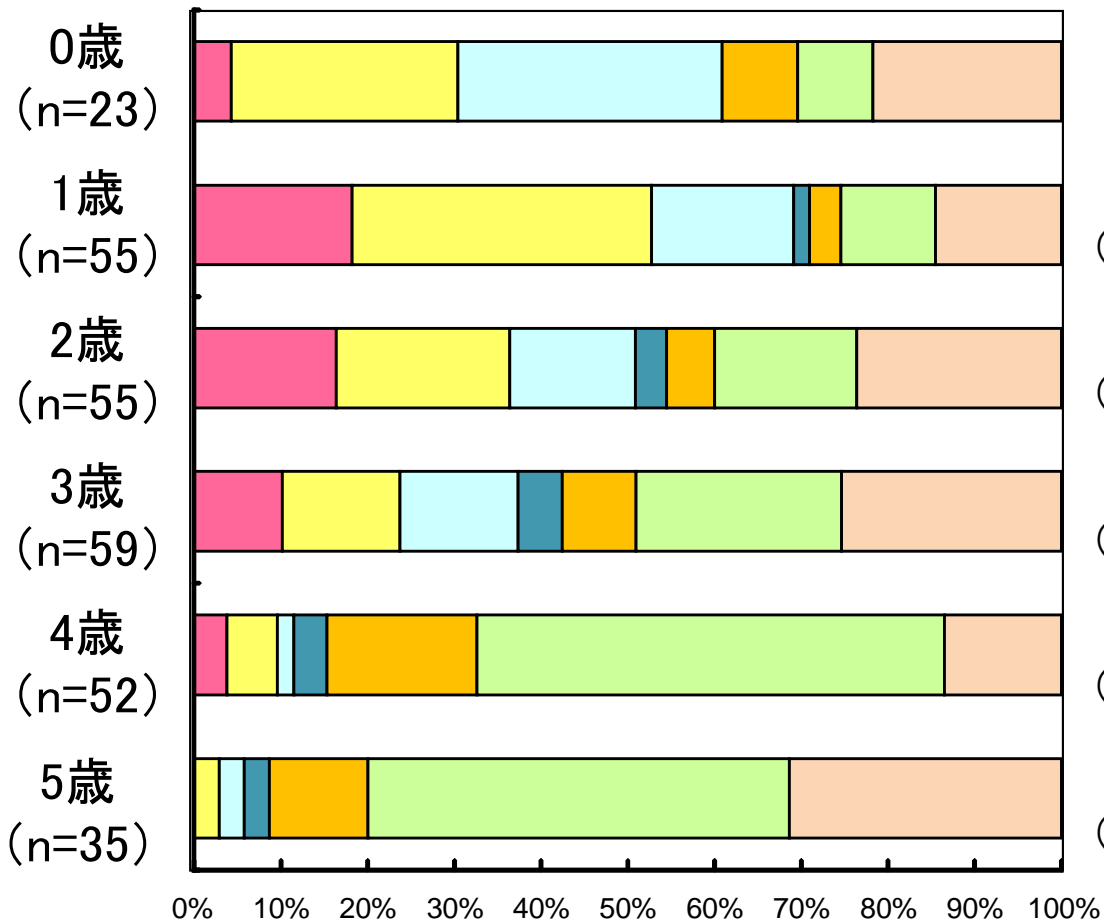
# Q お父さんは家事をしてくれますか？



# Q 1か月の子育て費用

今回の調査  
(多胎児にかかる費用の合計)

21世紀出生児縦断調査  
(厚生労働省)




5千円未満
  1万円 (5,000~14,999円)
  2万円 (15,000~24,999円)
  3万円 (25,000~34,999円)

4万円 (35,000~44,999円)
  5万円 (45,000~54,999円)
  5万5千円以上
  不詳 (無回答)




## 医療・行政機関から欲しかったサポートや情報 (自由記載欄より抜粋)

1. 妊娠中に多胎の出産・育児に関する情報やアドバイスが欲しい。
  2. 母親の「保養所」のような場所が欲しい(育児に疲れてどうしようもなくなった時の避難所)。
  3. 多胎妊娠は絶対安静に！ということを妊婦本人だけでなく、職場や家族にも周知・理解してもらいたい。
  4. 健診や病院などへの付き添いが欲しい。
  5. 妊婦健診や多胎の健診の医療費の補助が欲しい。
- 



## 多胎児を産み育てるのに必要、または不便な行政施策 (自由記載欄より抜粋)


1. 妊娠中の母親学級や、産後の健診などに多胎用の日があれば良かった。
  2. 身障者・妊婦専用駐車場のように多胎児駐車場があったら良い。
  3. インターネットやFAXによる受付が可能であれば、申請や手続のために外出せずに助かる。
  4. 行政の建物(市役所や保健センター)には横型双子ベビーカーが通れないドアやエレベーターが多い。
- 





## 【考察】


大規模調査とは、調査年度の違いはあるが、多胎育児は単胎育児に比べて、かなり困難であり、父親の協力が重要である。虐待をしていると感じている母親は全ての年齢で2倍近いことが明らかとなった。多胎育児においては、工夫だけでは対応できない経済的な負担があることが、初めて数値として実証された。多胎児サークルなどに所属する家庭においてこうした現状であるということは、多胎児家庭全体で見れば状況はさらに厳しいことが予想される。





## 【考察】

多胎育児に必要なサポートや情報には、多胎児特有の問題もあるが、行政や医療サービスの一般的な問題点も多い。自由記載にあるニーズの中には、担当者のアイディアや工夫があれば改善できるものもあると思われる。





## 【結論】

多胎育児支援では、来る人を待つ支援、個別事例・困難事例中心の対応、自主サークルにお任せの支援だけでは対応できない構造的な問題があり、今後は包括的アプローチが必須である。

## 【謝辞】

ご協力頂いた皆様に感謝いたします。本研究は、独立行政法人福祉医療機構（長寿・子育て・障害者基金）助成の「多胎育児支援の充実と普及啓発活動事業」による。

